

令和4年度第1回千葉市病院運営委員会議事録

1 日 時 令和4年10月17日（月）午後7時から午後7時45分まで

2 場 所 千葉中央コミュニティセンター8階 千鳥・海鷗

3 出席者

(1) 委 員 斎藤博明委員（委員長）、浅井隆二委員、斉藤浩司委員、
日向章太郎委員、寺口恵子委員、森嶋友一委員、宮田昭宏委員、
田中孝明委員、西田陽子委員

(2) 事務局 寺井病院事業管理者、佐藤次長
〔病院局 経営企画課・管理課〕
西野経営企画課長、香取病院整備室長、金総括主幹
鈴木管理課長、松川人事・定数担当課長、品管理課長補佐
〔病院局 市立青葉病院〕
山本院長、岡崎事務長
〔病院局 市立海浜病院〕
吉岡院長、鈴木事務長
〔保健福祉局 医療衛生部〕
柿崎医療衛生部長

(3) 傍聴者 0名

4 議 事

(1) 令和3年度決算の状況について

（令和3年度決算の状況について、令和3年度決算の診療科別収益・延患者数、繰入金の状況について、令和4年度第一四半期決算振り返り）

(2) その他

5 議事の概要

(1) 議事(1)「令和3年度決算の状況について（令和3年度決算の状況について、令和3年度決算の診療科別収益・延患者数、繰入金の状況について、令和4年度第一四半期決算振り返り）」事務局から説明。

【質疑応答】

<斎藤委員長>

今後、公共料金や材料費などが相当な値上がりをする可能性があるが、その点についてどのように考えるか。

<西野経営企画課長>

診療報酬として公定価格が設定されているため、値上がりに合わせて収入を上げることができない。それを踏まえると、今できることとしては少しでも材料費や燃料費の節約に努めるよう、全職員が意識を持って取り組むしかない。

<斎藤委員長>

職員一人ひとりが相当自覚してやっていかないとなかなか数字に表れてこないため、引き続き頑張っていただきたい。恐らく診療報酬が大きく上がっていくことはないであろうから、費用との乖離が大きくならないよう各自努力をしていくしかない。

<森嶋委員>

今回初めて参加させていただいた。新型コロナウイルス感染症の補助金は10月から減少するため、経常収支に大きな影響が出ると思われるが、対応についてはどう考えているか。

<西野経営企画課長>

新型コロナウイルス感染症の補助金による経営への影響は生じると思うが、令和3年度決算においては補助金27億円に対して経常収支も27億円を計上しており、コロナ下においても何とか黒字を確保することができた。これは、従前の第4期病院改革プランによる取り組みの成果だと考えている。新型コロナウイルス感染症の動向や光熱水費の高騰などにより、今後の影響が読めない中ではあるが、地道な取り組みを続けることで、補助金が減少しても経常黒字を計上できるよう努力していきたい。

<斎藤委員長>

診療所においても、新型コロナウイルス感染症の予防接種を実施していたところは相応の補助金が交付されたが、来年はそれらの補助金がなくなり、通常診療に戻っていくと考えられる。今後は基幹病院が持っている特色を積極的に生かすような経営を考えていくほうが良い。高齢者の保険料負担が増加するなど、受診者側にとっても厳しい時代であるからこそ、病院の特色を生かした経営を進めていただきたい。

<森嶋委員>

令和4年度決算の着地見込みは、第一四半期の実績を4倍したのと考えてよろしいか。

<西野経営企画課長>

第一四半期には期末勤勉手当が含まれ、給与費比率が高く反映されているため、単純に4倍したものが決算見込になるものではない。

<寺井病院事業管理者>

貴重なご意見に感謝申し上げます。今後どのように経営を進めていくべきかを考えた際に、両病院で課題となるのが看護師の不足であり、全国的にも同じ傾向にある。新型コロナウイルス感染症の患者の対応を続けるなかで、平常時より看護師の負担はかなり増えており、疲弊している。千葉市はこれまで看護師の確保のための施策をあまり進めてこなかったが、今後の危機管理のことを考えると、看護師に限らず全ての職員のさらなる人的資源が必ず必要となる。そして、生産性を高めるためには、斎藤委員長の仰られた特色ある医療を進めていくほかないと考えている。また、地域との連携を考えた場合、今よりさらに入院診療の比重を高めていく必要がある。現在は両病院とも全体収益の7割程度が入院診療によるものとなっているが、もう少し比重を高め、外来診療に関しては地域連携をしっかりと行っていく。高齢者はこれからも増加するため、地域の中で健康寿命を延ばす取り組みが必要だと考えている。

来年の4月採用の看護師募集枠を2倍以上に設定し、従前の50～60人の募集だったのに対して130人の募集となっている。常に120%の人的資源の確保を想定していかないと、少子超高齢社会や働き方改革によって生じる様々な流動的事象に対応していけないと考えており、それらをしっかりと踏まえて経営を進めていきたい。

<寺口委員>

素晴らしい発言だと思う。看護師を確保するのは非常に大変で、千葉県の場合は全体で8,800人不足しているとされているが、実際にはそれよりさらに不足していると思われる。実際の看護師が抱えている看護師不足の感覚は非常に強いものである。新人看護師の確保対策に関するアンケートを見る機会があったが、今年度採用の新人ですらも、看護師の給与が低いと感じている。新型コロナウイルス感染症の対応で非常に大変な思いをしながら、看護業務以外の仕事もこなしている現状に対して、給与が低いと感じている。国としても新型コロナウイルス感染症の受入れ病院の看護師に対して、給与を上げる施策をとっているが、前提として看護師が非常に少ない状況であるため、そのような施策を活用していただきたい。また、医師の働き方改革によりタスクシフト・シェアが推進される中で、医師の仕事を看護師へシフトするのは容易と思うが、看護師の仕事も他業種へシフトしていかないといけない。看護師の仕事量はすでに目一杯であるため、その点も考慮していただきたいと思う。

私が以前勤めていた病院でも、看護師は120%の確保をしていた。その分の収益を計上できれば、人件費比率は上がらないため、千葉市でもそのようにやっていてもらいたいと思う。

<寺井病院事業管理者>

貴重なご意見に感謝申し上げます。看護師不足は以前から予想されていたものであり、常に先手で動いていかないと厳しい。同時に、働き方改革で医師の確保が非常に難しくなる。少子超高齢社会の中で、特に過疎地域の医療機関が厳しくなることが予想される。例えば新生児科について、少子化ではあるが高齢出産の影響もあり、低出生体重児は全く減っていない。そのような患者が利用するNICUは、看護師が常に付き添っていないと成り立たないし、同じく医師も確保できていないと成り立たない。一方、少子化や働き方改革の中で、新生児科医を目指す医師もだいぶ減ってきている。こういったことをどうやって乗り越えていくかを考えていかなければならないが、非常に難しい。

西日本と東日本では1病院当たりの医師を含めた職員数が全く違う。九州や四国の病院は、千葉市と比べるとかなり職員数を確保しており、医師に関しては2床に1人程度確保できているのが普通になっている。その点については千葉県、埼玉県、茨城県は明治以来厳しい状態が続いている。看護学校にしても同様の課題があると思う。これらの課題については、斎藤委員長をはじめとした皆様にご支援をいただければ幸いである。

(2) 議事 (2) その他

- ・浅井委員より令和4年度の研修医マッチングについて言及があり、市立青葉病院及び市立海浜病院について、若手医師に魅力のある病院となるよう、さらなる努力を期待する旨の発言があった。
- ・田中委員より医療におけるデジタル化について質問があり、寺井病院事業管理者よりマイナンバーカードや遠隔医療への対応を図っていく旨の回答があった。

以 上

問い合わせ先 千葉市病院局経営企画課

TEL 043-245-5744